

## 蒲生干潟の植物④④

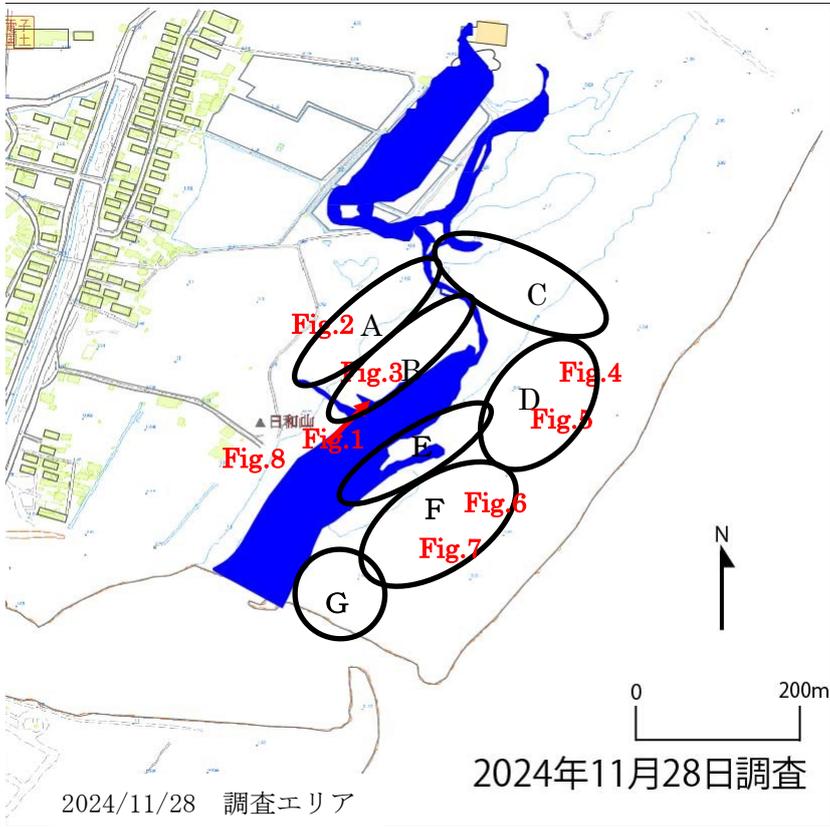


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



ヨシ



ハママツナ

Fig.2 エリアAで撮影

Fig.3 エリアBで撮影



ハマニガナ



ケカモノハシ



ハマヒルガオ



マツ



テリハノイバラ

Fig.4 エリアDで撮影

Fig.5 エリアDで撮影

Fig.6 エリアFで撮影

Fig.7 エリアFで撮影

Fig.8 日和山南側で撮影

調査日時：2024年11月28日（木）9:50～11:10，天気：快晴

天気は良かったが、風の強い日であった。定点観測では、前回よりも一層茶色くなり、所々水たまりが見られた。満潮時に水が広範囲に流入したことが予想される (Fig. 1)。エリアAのヨシは、前回まで白かった穂がすっかり茶色になっていた。茎も緑色の部分は見られない (Fig. 2)。エリアBのハママツナはすっかり枯死し、細くなっていた (Fig. 3)。エリアC～Dで見られるハマニガナの花は見られなくなり、葉も色付いていた (Fig. 4)。エリアDのケカモノハシも茶色く色付き始めた (Fig. 5)。エリアFに広範囲に広がっているハマヒルガオの葉は、黄色くなり始めていた。ただハマエンドウの葉はまだ緑色であった。同様にハマボウフウの葉も緑色であった (Fig. 6)。エリアFに点在するマツでは、マツカサが開き始めていた。空気が乾燥し、これからどんどん開いていくと思われる (Fig. 7)。日和山南側のテリハノイバラの葉は、今月も確認することができた (Fig. 8)。

(宮崎佳彦)